

# 京阪神東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会  
東雲会京阪神支部会報●第9号

<http://www.asahi-net.or.jp/~hf3s-okd/higashi/>  
連絡先 岡田俊一(山脈12回)  
神戸市垂水区神和台2-2-9



平成17年度総会「神戸コンチエルト」2005年11月26日(当番幹事22期)

今年の総会は11月18日(土)天満橋の「東天紅」山脈23期当番幹事は、いつまでも母校を愛し、京阪神東雲会会員との融和をはかり、母校と京阪神東雲会の更なる発展に寄与したいと思います。『融和と発展』1971(昭和46年)秋、山脈23期生最後の東高祭運動会、降雨の中、西本真一校長(二中卒)の力強いあいさつ「雨に負けず最後までやろう」が記憶に残っています。当時の教師と生徒との融和な関係、山脈23期生の原点です。総会での出会いをお待ちしています。【当番幹事　たい】



## 東京東雲会総会に参加

東京では例年7月の第一土曜日に開催されます。今年は7月1日に法曹会館で70名余りの参加でした。東京支部会長の鈴木誠さん(山脈5回)がこのたび旭日中綬章を受賞されそのお祝いもなされました。また新しく作成された東京支部の旗も披露されました。当日の様子は京阪神東雲のホームページの「同窓会の画像」の部屋に掲載しています。同期の方が出席される機会と一緒に参加されて京阪神と東京の交歓が行われると

いいですね。東京東雲会の連絡先は、東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル6階鈴木誠法律事務所内東京東雲会事務局 Tel 03-3503-7272《お》 写真は東京東雲会総会

# 自分の健康は 自分で守る

走ることで  
母校とつながり

広田幸一（柏葉6回）



昨年度の神戸総会に出席予定であった東雲会本部名誉顧問の広田さんが当日来られなくなり、後で当会宛に近況報告と母校への思いを便箋8枚にまとめて寄せられました。広田さんの了解を得て掲載します。

京阪神東雲会第8号を読ませて頂きました。会員の皆さんのが書面が詳細に記録されているのに全く感心しました。柏葉7回の村田美雄さん昔の知り合いで数十年音信は絶えておりましたがお元気の様子。次は柏葉22回藤田忠雄さん。60年前米子一鳥取駅伝競走に参加。第一回で鳥取二中が他を抜いて一位優勝。私はこの記事を知るまでまったく存じておりませんでした。ご本人は下市一赤崎間の区間賞実に立派。後輩にも頑張るようにそえてありました。

丁度この時期（2005/11/12, 13）鳥取県では高校駅伝、米子ー倉吉ー鳥取(60回目)一日目は鳥取東は一般も含め35位でした。高校の部では下位でも翌日は頑張ってくれると期待して早く終着点、県庁前で東高は待てど見えず周りの人たちでねると鳥東、米工は欠落と知らされ全く残念でした。私も多少ランニングには経験を持っておるだけに残念でした。

さらに加えてご存知でしょうが13年目(平成4年)スペインバルセロナ五輪大会女子マラソンで入賞した山下佐知子さん(山脈34回)を60周年記念を祝福する意味で特別招待、レセプションがありました。

私事ですが当時小さな県から五輪入賞の可能性がある三人のために必勝を期し三君の母校を結んで八頭高(森下)－鳥取東(山下)－鳥取西工(西本)を走り国府町宇部神社でお守りを受け現地に向う西尾知事に託しました。知事の記者会見で僕のことを話され地元紙・朝日・毎日で写真入り報道され生涯の思い出であります。山下佐知子さんとは十年振りの再会で感激でした。

もう一つの歴史を聞いてください。

鳥取二中が戦前甲子園全国大会に出場したことをご存知ない方が多いと思いま  
すが私たち6回が五年生だった春、山陰大

会で優勝し選抜で出場できました。投手の高浜正君は体格もよく剛球でした。歴史を持つ九州の強豪小倉工業に 3 : 2 で負けましたが奮闘した歴史があります。当時の出場選手は全員他界しております。

もう 20 年前になりますが学校側から野球部後援会長を頼まれ、当時元気だった仲間と相談し協力しながら甲子園出場再現を目指して私も皆さんの協力を頂きながら微力を傾注してまいりましたが勝つことの難しさを痛感する昨今です。

長くなりましたが私事で恐縮ですがこの八月二日で 90 歳になりました。戦地から引き上げ、決して体力は十分ではありませんでしたが、ある時期健康の大切さを自覚し生活習慣病を克服しタバコも捨て節酒、健康づくりを目標に十数年間つとめてきました。県下の主だった健康マラソン大会には出場してまいりました。地球温暖化がドンドン進み、海面の上昇、自然破壊、あれこれ勉強してみますと一人日本のみならず世界の 21 世紀は不安が一杯です。

私たちの手の届くところではあります。90歳の私の志すべきことは周りに心配をかけないよう自分の健康は自分で守ることを信条につとめてまいります。

東高の若い諸君は健康な精神は健全な身体に宿る。信条を持続し頑張ってくれることを出来の悪い先輩ですがお願ひします。

表題横は昨年 2005/11/6 福部ラッキョウマラソンの完走時の画像。TV 東京取材 2005/12/4 全国放映。下は、広田さんの活躍を伝える朝日新聞(2004/05/10)

## 保護される存在ではなく 社会の構成員として関わる —高齢化社会について—

上田二郎（柏葉 11回）

人は猿の仲間から進歩して寒さや外敵から身を守る衣服や住居を考案し調理や暖房に火を使うことを覚えた。このために他の動物に比べて最長の寿命を得た。脳の重い動物ほど長命で人は百才以上生きられる。厚生労働省がまとめた2005年の生命表によると日本人の寿命は男78.5才（世界4位）、女85.5才で、21世紀には驚くべき高齢化社会になることは誰も認めざるを得ない。ではなぜ世界の先進国を抜く長寿となったか。これには次の要因がある。

- ① 戦後の医療技術と医療品の進歩
- ② 上下水道設備などの衛生環境の改善で感染症等の克服
- ③ 乳幼児・青年の死亡率の低下

では将来はどうかというと三大成人病（癌・心臓病・脳卒中）克服や老化のメカニズムが明らかになればまだ寿命が延びる可能性があるが現状では大幅な延びは望めない。

石器時代の寿命は猛獣飢餓などにおそれ10年以下と想像された。昭和22年頃は人生50年といわれた通り男50才、女53才だったが短期間に現在の驚異的な長寿になった。

老後はいつから始まるかは人によって異なるが大体65才～70才で老後を意識するようだ。

「老」は辞書では人が年を重ねることと述べられ体が動かなくなり思考力が衰え経済力がなくなることは意味していない。日本人は働くことが生き甲斐で仕事を離れると家族ベッタリ、無趣味、非社交的であるといわれるが誰にも訪れる老後は人間にとて生涯における最も素晴らしい時代にするように肉体的にも精神的にも能力生かしてゆきたい。

老後の問題点にふれてみると

- ① 老後は人間の生き方で変えられる。
- ② 心身が衰え経済力がなくなる時期と思い込む。
- ③ 生き甲斐や趣味、仲間作りを忘れている。
- ④ 60才から20年の余生をもっと考える。

- ⑤ 積極的に豊かに過ごす経済計画をじっくり考えて対処する必要がある。

現在の中高年は余りにも急速な長寿化に後半生をどの様に生きるか暗中模索している。年令などの社会的枠組みを離れ自らの能力を責任において自由に活動を続け、所謂「エイジレス社会」を新しい文化の有り方とし社会から保護される存在から重要な構成員としてその役割を担う存在になるべきだ。全国で約900万人が参加して長寿社会を支える主役の一人という自覚で日常の学習、健康、仲間作り、友愛活動、社会奉仕など積極的に行っている。

「生きがいとは恋人みたいなものだ。人から与えられるものではなく、必要な人が自分の好みのものを自分の判断で自由に選ぶべきものである」と著名な心理学者が云っている。

多くの人が生きがいの必要性を痛感しているのだろうが、生きがいのイメージがゲートボール、囲碁などの大半が趣味の領域に属している様だ。社会参加しているという意識で、社会の動きに関心を持ち少なくとも疎外感を味わうことなく、誰にも遠慮することなく心の張りを持てる充実したものを見つけるべきだ。生産的な活動などに携わることもよい。



高齢者社会を唱えている施政者たちの発想の中に老人医療費で財政が破綻するとか若者との間で世代紛争が起こるとか寝たきり老人で社会が満杯になるなど暗い老臭のする社会が云われている。高齢化社会はしつとした、ゆとりのある人間的社會で「意義のある仕事」を互いに分け合う社会で、高齢者はシルバーデモクラシーの担い手として最後まで社会的活動を続けてゆくべきだ。

現在は我が国に歴史の中でもっとも繁栄した暮らしやすい時代である。反面、高齢者の自殺、交通事故死傷や離婚も多いというきびしいデータもある。わびしい世になったと嘆かず長寿時代を前向きに生きることが肝要である。

長い人生経験で培われた若者にない魅力を發揮して自信をもって過ごし生かされている感謝の気持ちで「捨てられない老人、話せる老人、役に立つ老人、遠慮なく叱れる老人」になる心がかけが大切である。先祖から受け継いだ日本のよき伝統を子孫や社会に伝える為に長生きせねばならない。最後にシルバーパワーを結集して社会、政治に影響力を發揮する存在になることを望む。

## 丹波紀行 「老後」を「朗後」に

### その3 生き物達との出会い

鈴木 亮介（山脈 11回）

‘02、夏のある日、中に入ろうとしたとき洗い場の水溜にカエルが三匹白い腹を上に向けて浮いていた。「あれ！三匹も死んでいるわ」そう思いながら通り過ぎようとしたとき、カエルはゆっくりと背を上に向かた。そして足を動かして岸に上がって歩き出した。なんだ生きていたのか。カエルはあんな格好をして休むのか。

‘03年6月、近くの路上でキジの親子を見つめた。車を止めると2羽のヒナの前を歩いていた母親が林の方へ歩いて行った。そこには3羽のヒナが母親について行こうとして溝に落ちていた。母親は溝の中を3mほど歩かせて土が溜まって溝が浅くなっている所で上に上げた。必死になって母親について行こうとするヒナの姿はかわいいものだ。

他の日にはイタチが家族で歩いていた。2匹の親が4~5匹の子どもを連れて、首を上げてひょうきんな格好で回を確かめながら林の中へ入って行った。子どもが一生懸命親の後についていく姿はどんな生き物でもかわいい。

7月になると池の水を溜めることにした。作り

方が悪く漏れる池だけど、水を出し放しにしてみた。何日かたつとアメンボがやってきた。その数もだんだん増えていき、水の上も中もいっぱい泳ぐようになった。やがてカエルの数も増えていき、池に近づくと淵にいたカエルが次々に池に飛び込んでいく。こんどは15cm位の鯉を3匹放してやった。

ある日妻が池の方から顔色を



変えて走ってきた。「父さんヘビがいる」妻はヘビが特に嫌いなようだ。ヘビは逃げようとしないので静かに観察することにした。回りはシーンとして物音一つしない。すると突然キュッキュッという音がした。やがて尻の方からカエルを捉えたヘビが林の中へ入っていった。久しぶりに自然界的な営みを見せてもらった。

10月の夜7時頃草山温泉からの帰り、近くを車でゆっくり走ってみた。ライトに照らされた野ウサギがびっくりしたように耳を立てキヨロキヨロしたかと思うと林の中へ消えていった。あゝウサギもいるんだ。そして11月、今度は昼間、畑で作業をしていると何か生き物が畑に飛び込んできた。何かきたぞ。ウドの木の下に隠れるようにじっとしたのでよく見ると小ウサギだった。すると突然妻がいい出した。「父さん捕えて」「捕えてどうするんだ」「飼えばいいじゃない」

我が家では1991年秋から2002年1月までヨーロッパ穴ウサギを飼ったことがあった。そのウサギはとてもよく馴れていて、とても賢く可愛かった。部屋に出てやって必ずダンボールのトイレに走っていてシックをした。ミカンが好きで妻が皮をむいてやると膝の上に前足をかけて食べていた。静かになると腹を上に向けて寝ころんでもいた。そんなイメージがウサギにはあったので、ようしと思いつき野菜に掛ける網を持って追いかけてみた。しばらく走り回った後、小ウサギは林の中に逃げていった。考えてみればとても捕えられるものではないのに。可愛そうなことをしてしまったなあ。もう来てくれないだろう。そう思うとがっかりした。

’04年1月、畑一面に雪が残っていた。よく見るとウサギの足跡があった。今でも来ているなあ。また会えるかも知れない。そう思いつつ池の方に行つてみた。すると池に浮いている石の上に動物のウンコらしきものが沢山落ちていた。鉛筆の太さ位で長さ3cm程である。何のウンコだろう。洗い場の回りやそこに至る道路にも沢山落ちていた。村の人聞いてみた。イタチじゃないか？そうか、家族で水飲みに来たのか。

3月下旬、春キャベツとブロッコリーの苗を植えた。3日後に行ってみると、苗の葉は全部食べられて坊主になっていた。チクショウこれはヒヨドリのしわざだな。さてよ、よく見ると食べられているのは外側の葉だけで中心のやわらかい新芽は残されていた。ヒヨドリって賢いなあ。あらためて生き物の習性に感心した。

老後を朗後にするために色々な生き物から教えられ、楽しませてもらえるようになりたいと思っている。【写真はミカンをねだるウサギの花子】

# 古代東高

## 思い出シリーズ

### 昭和31年に普通科単独 6日制になる

#### 第九回 倉恒 貞夫

(本部同窓会副会長・山脈3回)

現在、東高同窓会の会員数が、2万4千人を超えてますが、東高山脈の9回生(S33年3月卒)までは各卒業生4クラス約200人、10回生(S34年3月卒)より急増期の15回生(S39年3月卒)までは、6クラス約300人で、それ以後は12クラス約600人、11クラス(約500人)が29回(53年3月卒)まで、それ以降10クラスとなっているようです。

昭和30年には学区制が解かれました。それまでは市内の若桜街道より東側は東高へ。西側は西高へ。したがって兵庫県の浜坂・居組・豊岡などは東高。気高・青谷・浜村などは西高とされ、旧制中学校の在校生は、一中、二中、県女などの区別なく学校を決められました。また、八頭郡の生徒は八頭高へ、泊などの生徒は倉吉東高へやらされました。

また、東高発足当時から、早々と実施されて来ていた五日制が他校に比べて最も遅くではありましたが学区制と共に廃止されました。

五日制の土曜日は校内大会ーほとんどの種目を行いましたー、補習、研究授業など。もちろんクラブ活動も。このため誰もが複数のクラブに所属していました。私は10クラブぐらいに入っていてその上生徒会活動もしていました。勉強などはいつやれてるのかな?

新制高校三原則は、総合制、学区制、男女共学でしたが、総合制と学区制が崩れてきたわけです。

『昭和27年当時から、すでに高校再編成の話は出てきたが、年度末、いよいよ本決まりとなった2月ごろから「校名問題」が持ち上がった。そして職員会議だけでなく、生徒会やPTAの方でも議論を呼んだ。普通科は単独で、独立し工業科と農業科が一緒になることにな

ったが、そのときの校名「鳥取実高」に対して工業から反対が出て、「鳥取工業」ならいいと言い、農業科は反対。どちらも鳥取東高を主張した。その上、西高が「鳥取高校」にしたいと言い出して混乱に輪をかけた。「鳥取東高」というのは価値のある名だったのである。

昭和28年度、普通科、工業科、農業科で構成されていた総合制の東高は、この年分離して普通科単独校として独立することになった。

結局、普通科は「鳥取東高」を名乗って、校章・校歌なども引き継ぎ、工業科と農業科が一緒になって「鳥取高校」を作った。(創立50周年記念誌より)

昭和30年には五日制が廃止され翌年の10回生からは五日制になり中には、ダマサレた?!と言っている人もいました。

- ◎ 農繁休暇 昭和24年は6月9~12日。10月24~26日。
- ◎ 厳冬休暇 旧正月休み。2月16~20日。以降毎年同じころに3~4日学校が休みになりました。
- ◎ 遠足 毎年春と秋。学年全体行動として行いました。近いところでは久松山、砂丘、靈石山、空山。秋にはバスで、小鹿渓、高清水公園、戸倉峠、大山。HRで行先や行き方、クラス単独か学年かなどほとんど生徒が決めていたと思います。
- ◎ 生徒会活動 三校舎(普通科、工業科、農業科)全体の議会の議席は一代議員といつてましたが直接立候補制でした。

投票前は、ポスターを学校中に張り出したり、廊下で休憩時間中演説をしたり、投票日には校舎の屋根に出て、自分の投票を呼びかける人もいました。

代議員会は一日かけて、三校舎のメンバーが集まって議論をしました。それぞれの校舎の利害が絡まって血を吐くような言い合いでした。予算案の審議の時は一日ではすまなかったです。私なども河原に引っ張り出されて文句をつけられましたが、『わしを殴ったら代議員会で言ってやる!』とかえっておどかしてやったこともあります。



## 返信葉書(平成17年度)の 近況報告葉書から

同窓生OB諸兄姉の元気を発見してください。本紙も来年は10号を数えます。皆さんの“日々の暮らし”を返信葉書の近況欄でお寄せください。

**柏葉** 代筆で失礼いたします。父一穂も94才になり体力も衰えが目立ってきました。特に足元がおぼつかません。中秋を楽しみながら一歩また一歩と前進してゆきたいものです(3回/太田垣一穂) ●柏8の同窓生も京阪神在住者がなくなり淋しくなりました。私もぜんそく高血圧の上最近両足が痛く目下療養中です(8回/釜谷義治) ●終戦復員して60年の節目で私も80才の大台です(15回/土井操) ●今のところ毎日元気に暮らしています(16回/井口芳明) ●戦後60年の今年日本海新聞連載中の「鳥取県学徒勤労動員」の記事に戦時下の二中時代を思う日々です(18回/渡邊久也) ●小生元気に過ごしております。社友会、同窓会などの幹事や地域社会での奉仕活動、ゴルフ等多忙な毎日です(18回/佐々尾昭) ●毎日日曜日で週2~3回水泳に通っています(19回/森本勝則) ●日常的にあまり変化のない生活です(21回/岡野巧) ●毎回“東雲”懐かしく拝読させて貰っています。70台半ばとなり柏葉も段々少なくなって来ましたが未だお元気な先輩のメッセージ嬉しく読ませて頂いています(22回/加嶋久) ●寄る年並みで老化現象著しく懸命に長らえております(22回/麻尾睦治) ●今年は近くに居ます小さな孫達の運動会に4回応援に出掛けました。早朝登山(芦屋城山)の日々です。会報ありがとうございます。小生昭和18年入学(柏22の方と一緒に)中学5年で病気休学しましたので柏23の方々と最後ご一緒頂きました。会報で両学年の名前を懐かしく伺っています(23回/西尾将) ●定年退職して13年、茨木市で高齢者憩の家「街角デイハウス穂積の里」の経営を手伝っています(24回/柳澤宏美)

**山脈** 中高時代全く縁のなかったコーラスに65才で首をつっ込み早や7年余体調維持とボケ防止にと週2~3回参加しています。周囲の方は迷惑? (1回/吉見敏宏) ●楽しい計画をたてて下さってありがとうございます。毎日孫を相手に家に引きこもっておりますので楽しみにしております(2回/木下八重子) ●今年夏暑いさかりに主人が他界致しました。前向きに過ごさなければと思っております(3回/山崎圭子) ●少子化時代とな

り近所の保育園の農園管理を引受けて子ども達にジャガイモやサツマイモ掘りを楽しめるように世話をしています。「畑のおじちゃん」となっています(4回/太田敏輔) ●古希を迎えた春退職しました。朝の散歩バドミントンにデジカメ写真撮影などそれなりに元気に暮らしています(4回/高橋利禎) ●4月から大阪勤務となり自宅通勤です。加齢に伴い高血圧etcで薬を飲んでいます。週一回テニスで体力維持をしてまだ元気に暮らしています(4回/小路一完) ●絵画書道教室の絵画制作100号4枚他小品10枚位1年でこなさねばならないので病気などしている間がありません。お陰で元気になります(4回/中村美登) ●京阪神東雲のホームページ楽しみに見てます(5回/森本珠実) ●古希を迎えたんびりと過ごしております(5回/森田明弘) ●あいかわらず地域福祉に頑張っています(6回/太田祥子) ●山六会50周年記念総会は下呂温泉で華やかに挙行され青春時代の再現に至福そのもので校歌齊唱に涙ウルウルでしたが後輩達よ、甲子園球場では非声の張りさけるほど謳歌させてくれ!! (6回/久永浩) ●加齢と共に身体機能の低下を実感している毎日です。前にも云いましたがボランティア活動が健康維持に役立っている気がします。でもアルコールはドクターストップがかけられ新たな趣味を模索しているところです(6回/藤原日出男) ●卒業50周年記念総会が下呂温泉でありました。70名集まりましたがみんないい方ばかりでこの学年になったことを幸いに思います(6回/宇野良子) ●主人がデイサービスのお世話になり、私も次第に外出がむつかしくなりました。元気な内に海外旅行しておいて良かったと思います(6回/稻垣崇子) ●元気に暮らしています。でも寄る年の波には抗い難く“死”を我がことと考えるようになってきました(7回/田中康夫) ●「全日空」生活、楽しんでいます(7回/元村昌公) ●年金生活で“サンデー毎日”的日々です(7回/河鳥吉夫) ●最近腰痛の為連続歩行が困難になり、外出が減りました(7回/田中亨之) ●小生68才を過ぎましたが海外で見聞を広げたり体力維持のためにスポーツクラブに通ったり仲間とゴルフなど忙しい毎日です(7回/河上裕) ●近年整形外科との付き合いが多くなりました(8回/山本文子) ●マゴも4人になりました。毎日忙しく過ごしています。リタイアの日を楽しみに働いています(8回/大嶋正二郎) ●季節ごとに咲いてくれる草花に心をいやされ元気に過ごしています(8回/山崎萬喜子) ●農業・山・テニス。囲碁・将棋は数年に一度。物理の勉強は日課の年金生活です(8回/三浦久志) ●老人学校に通う等まあ元気に過ごしています(9回/北郷實) ●義兄の快気祝いで久しぶりの鳥取です。今から胸が

鳴り故郷とはこんなになつかしいものかと年令を感じます。時間があれば母校の姿も見に行きたいと思っております(9回/森本靖子) ●12月末に二回目の定年退職をします。その後は鳥取市の住民になります(10回/西村律男) ●待ちに待った65才。ジョギングをはじめて35年目標達成の年でした。次の目標を考え中です(10回/一軸さゆり) ●元気です。海釣り大会なども参加しています。又、65才以上のみなべ町長寿大学(4年)に入学しています。町語り部の先生について「熊野世界遺産登録地に歩こう」に毎月1回行っています(10回/青葉輝尚) ●6月末で自由人となりました。これからは花園へ神戸製鋼とワールドの応援に通います。関西地域からトップリーグ優勝チームを出したいものです(10回/段田太久根) ●子離れが出来ないのか少しは子ども達の役に立つのではないかと思い動いています。11月はシンガポール在住の息子のところ、12月には3人目の孫が生まれますのでそちらに行きます(10回/前田佳子) ●愚妻とのスイストレッキングへ出発の二日前「解離性大動脈瘤」を発症し10時間の大手術。

「三途の川」への旅から帰還しリハビリ中。健康が回復すれば年2回の海外への旅を再開したい(10回/西尾康弘) ●定年退職後引き続いで仕事をしているのも元気な要因と考えています。古女房と二人でゆっくりした生活をしている今日です(10回/博田譲二) ●毎日元気で過ごしています。パソコンキーボードが上達しません(10回/岩崎素彦) ●老母の介護、畠仕事、執筆、講演、マラソン(フル30回完走、100km10回挑戦が当面の目標)など忙しくしています(10回/橋本巖) ●還暦も数年過ぎてスローライフをモットーに心にゆとりのある時間を持ちたいと思いつつもまだ毎日バタバタとナースの仕事に精出しています(11回/盛田和子) ●会社員生活完全退職しました。元気です。のんびり暮らしております(11回/茂井洋美) ●第一生命の子会社で週三日勤務しています。他の日は週一のゴルフと貸農園(約20坪)の野菜作りを楽しんでいます。(11回/鎌谷勉) ●今年3月で教職生活を終了しました。母親の介護のために時間の融通がつかず次回は是非とも参加したいと思います(11回/光岡喜久代) ●自宅近くの老

人ホームでの仕事に月2回程度の友人とのゴルフと元気に過ごしています(11回/萬知行) ●息子がお蔭様で整骨院を開院致しまして私の人脈で少々力になってやっておりましてゆく場所が楽しみに出来るようになりました(12回/森田敏恵)

●今年は地域の御世話係が廻って来まして気忙しく過ごしています。コーラスは相変わらず楽しみに行っています(12回/田島多江子) ●年金生活で如何に過ごすか体得中です(13回/天野史郎) ●今は家裁の調停委員をやりながら少年の面接をしています(13回/西垣真智子) ●趣味の水彩画を描いて12年になります。下手の横好きですが(13回/前田章子)

●小生還暦を過ぎて非常勤として第二の人生を歩んでいますが、鳥取という活字や言葉を見聞きするとこの上もなく懐かしく故郷鳥取を思い出す年となりました(13回/真田譲) ●急性心筋梗塞を患い2年経過しましたが大事をとって週3日程度のバイトをして体調を整えて

います(14回/田中昌樹) ●今年3月に2年早く退職致しました。退職後より予防医学・美と健康に関する仕事に縁がありました。忙しく充実した日々を送っています(16回/竹下文枝) ●定年まであと1年余なんとか元気でがんばっています(16回/木村ひとみ) ●“国づくりは人づくり”教育現場にいると物とお金ばかり追って生きている人間の姿をよく目にします。長期的な展望のもとに入づくりに力を入れていくような政策をして欲しいです(17回/深田庸師子) ●家族が一人独立し今は四人になりました。来年は三人になる予定です。月1回は母の看護に鳥取に行く日々です(18回/清水由美恵) ●先日石鎚山へ登ってきました。久し振りに緊張と感動を味うことができました(18回/長森純子) ●息子娘がまだ独立していませんのでまだ元気に頑張らねばと思っています(18回/三田良子) ●今年は自治会の世話役で祭り、地蔵盆、運動会、リクレーション等々で大変忙しくしています。一つ一つ行事が無事終わるとほっこりしています(19回/石黒美千代) ●都道府県のローカルニュース番組がTVで流れるときテレビにかじりついて見ていました。片山知事も活躍されていますが産業観光、一村一品、もっ



と鳥取から発信して欲しいです(20回/山根行憲)  
 ●昨年から田植え、稻刈時実家に帰って手伝っています。慣れないもので身体中痛いですが故郷の空気は大阪と違い大変おいしいです(20回/中原恵子)  
 ●まだまだ子育て中の身です。(大学・高専・中学)あと8年はかかります。10年後はくらいからは顔を出せるようになるかと思います(20回/秋田幸子)  
 ●今春よりふるさとに住むことになりました。36年ぶりの鳥取は懐かしいことばかりです(20回/野際昇)  
 ●義父母の介護初孫の誕生とピアノのおけいこで忙しくしております。高齢化社会我が家にも波がおしよせてきます(21回/三宅紀久子)  
 ●小学校だけではないのですが教育課程の目まぐるしくかわる変化に悩みつつ勤めております。孫のような子どもたちと共に過ごしております(22回/池本秀子)  
 ●孫が誕生しますます元気で長生きをしなければと思うこのごろです(22回/山本みどり)  
 ●主人の仕事の関係で香港に12年滞在し現在はアメリカ(カリフォルニア)に来て6年が経ちました。近くの日本の会社でパート勤めをしています・鳥取弁がとても懐かしく思い出される今日このごろです(23回/中谷仁美)  
 ●50才を越した今主人と2人主に健康に気をつかい毎日過ごしております(23回/木村道子)  
 ●二年前神戸店から梅田店へ異動。通勤時間が倍になりました。いいトシになってつらいです(23回/横山毅)  
 ●まだまだ“仕事”に“プライベート”に忙しく致しております。月に一度は鳥取へ帰り心身ともにリフレッシュ、パワーアップして頑張っております(24回/窪田美保子)  
 ●保育士として働き続けてもう30年近頃の子どもを取りまく状況や子どもの後ろにいる保護者や社会についていけずおたおたしながら過ごしています。はやく第二の人生を歩みたい!!切望しています(25回/森栗典子)  
 ●今年は末の息子の少年野球の役員をしています。土日は野球づけの日々です(29回/大向恵子)  
 ●市の生涯学習で英会話を始めて6年経ち先日力を試すべくカナダへ参りました。少しは通じたものの単語力のなさを痛感!今後はこの点を目標にがんばるつもりです(30回/宮崎朋子)  
 ●介護保険の仕事をしています。ついていくのでやっとの毎日です(32回/川崎恵理子)  
 ●いつも会報紙の倉恒先生のコーナーをなつかしく拝見させてもらっています!!8号は写真入りで超カンドー!!お元気そうで何よりですね(37回/北田美智子)  
 ●小学校2・4・6年の母になっております。毎日忙しくしていますのでしばらくは参加できそうにありません。m(\_)\_m(40回/加田順子)  
 ●子育て中(一歳娘)ですので今回は欠席します。次回はぜひ参加させてください(44回/高橋紫乃)

## 会費(寄付)ご協力のお願い

本年度も京阪神東雲会運営費として会員の皆様に年次会費(寄付)一口1,000円の出捐をお願いしております。総会に参加される方からは、当日参加費用に含めて会費を頂きます。昨年は当日参加の方々を含めて318名の方々からご協力を得ました。厚く御礼申し上げます。因みに本年6月現在の会費残高が937,172円となっております。会費(寄付)振込先は次の通りです。

(会長 上林武夫・会計幹事 中原修市)  
 郵便振込「口座番号 00940-2-133540  
 加入者名 京阪神東雲会」

## 平成17年度の会計報告

平成17年度 総会関係会計 単位 円

費目	収入	支出	残高
前年度繰越金	66,747		
総会会費	987,000		
雑収入	0		
寄付金会計より	92,120		
総会費		987,000	
会議費		42,836	
通信費		57,991	
その他		46,281	
会計	1,145,867	1,134,108	11,759

寄付金会計 単位 円

費目	収入	支出	残高
前年度繰越金	821,603		
17年度寄付金	336,580		
会報編集通信費		10,000	
総会案内文作成送		146,011	
その他		65,000	
合計	1,158,183	221,011	937,172

## ●編集後記●

6/23の母校創立記念日で、講演をさせて頂きました。高校時代のことにつれながら同窓生として母校への思いを話しました。いつかは母校で教えたいという夢がかないました◆年齢的なもののか同窓会関係者との交流の機会が増えました◆カットは山崎さん(山脈12回)によります。《お》

